

「まちなみ」について

住宅生産振興財団理事長

田鍋 健

住宅需要が量から質の時代に入ったと云われだしてからすでに久しい。最近の住宅の建物自体の品質即ち広さ、間取り等の品質は近年著しく向上して来ているが逆に地価の高騰から敷地面積は次第に狭少化し甚だしきはミニ開発が平気で行われヒンシュクを買っている。住宅とは人の憩いと安らぎの場所であるべきで快適な住宅の供給とは単に住空間を形成する建物の品質のみならず自然と調和した周辺の住環境が快適なものであってコミュニティ形成に役立つ様な「まちなみ」と云う景観を併せて提供する事だと思ふ。

此の点に就いて我国の実情は先進諸国に比して甚だ遅れていると思ふ。アメリカのサンフランシスコに代表される均整のとれた住宅街区、フランスのパーリー郊外の計画的に統一された街造りは遠大なる計画に基づく立派な芸術作品で全く羨しいと思ふ。西独に於いても街造りの計画は厳重な官庁の管理下にある。私の会社の西独にある仔会社がケルン市郊外のグロスケーニツヒドルフと云う所で八千坪程の原野を私も見て買ったのであるが、それが何んと官庁の街造りの設計審査済の土地であった。従って道路公園は勿

論、建物及びガレージの配置、建築戸数（七三戸）各戸の面積（一〇〇㎡、一一五㎡、一三〇㎡の三種）すべて二階建、屋根傾斜四八度、連棟（戸建、二戸一棟、三乃至六戸連棟の各種）と総べて決められて居り一切当方の勝手な建築は許可にはならない。日本で云えば土地造成の開発認可申請に建築基準法に依る建築許可申請を併願する様なものである。ここまでは官庁に依る規制の厳しいのは日本では考え物であると思ふが、西独では街造りの職業的専門設計事務所があつて、それが官庁との連絡の下に計画造りをやる様で地主が設計料を負担しているようである。

今年の六月に略完工した現地を視察したが、独乙の中産階級向きの理想的なタウンハウス団地が出来上つていた。連棟が多いが、各戸に大きな庭を持つて花作りに精を出していた。健康で明るい「まちなみ」には今後健全なコミュニティが育つであらう。

国土と街と家を大切にする独乙の国民性を感じると共に日本も斯うあつて欲しいと思ふ。財団の機関紙創刊に当り、その責任の重大なるを思いつつ所感を申述べました。

まちなみ第一号目次

楽しい住まい……………	浅村 廉…2
「まちなみ」について……………	田鍋 健…3
公庫融資と住宅フェア……………	前田昌靖…4
宅地開発公団における	
民間エネルギーの活用……………	金湖恒隆…7
財団にひとこと……………	越智福夫…11
財団住宅祭の今日的意義……………	高橋 茂…12
住宅祭の運営システム……………	入野昭造…15
まちなみ・財団マーク……………	17
準備すすむ二つの住宅祭	
鹿児島伊集院妙円寺団地……………	18
和歌山県橋本林間田園都市……………	20
財団発足一年の歩み……………	22
財団日誌・編輯後記……………	24